

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1998年(平成10年)12月25日 No.1112

目次

| | |
|-----------------------------------|--------|
| 1998年11月末時点のロシア経済の状況..... | 坂口 泉 1 |
| キーパーソン..... | 15 |
| C I S 諸国通貨の最新為替レート..... | 15 |
| ロシア東欧経済速報 1998年(平成10年)掲載記事一覧..... | 16 |

1998年11月末時点のロシア経済の状況

—モラトリアム期間終了後の金融業界の状況を中心に—

はじめに 筆者は、1998年8月17日のルーブルの実質的切り下げの後、金融業界を中心としたロシア経済の動きを注視してきたつもりであるが、最近、事態の進展の速さあるいは状況の不透明さゆえに、方向感覚を失いつつあるというのが正直なところである。

より具体的にいえば、ここにきて、一度は見えたような気がしたロシアの金融システムの未来像を、見失ってしまった。確かに、ロシア金融システム復興のための体制は作られつつあるが、ロシアの大手商業銀行が抱える債務の大きさに思いをはせると、果たして、作り上げられた体制がどの程度まで実際に機能するのか疑問になってくるのである。

本レポートでは、筆者の方向感覚を狂わせる原因となっているロシア金融システムが抱える諸問題を中心に記述を進めることとする。

1. ロシアの大手商業銀行にのしかかる重荷

(1) 巨額の先物為替取引絡みの対外債務

先物為替取引絡みの対外債務は、モラトリアム期間終了と同時に返済時期のくるものがほとんどで、その額の巨大さもあって、最近、ロシアの新聞紙上ににぎわすことが多い。この問題の解決は、ロシア金融システム復興のための第一関門であるとの言い方も可能であろう。この「第一関門」の実態は以下のとおりである。

1) 先物為替取引絡みの債務の規模 ロシアの大手商業銀行は、ほぼ例外なく、外国の金融機関との間に先物為替取引契約を締結していた。その多くは、ルーブル建て短期国債絡みのものだったといわれている。外国の金融機関とロシア大手商業銀行間で締結された先物為替取引は、ルーブルの対ドル・レートが想定されていた数字より下落すると、ロシアの大手商業銀行